

令和8年度全国学力状況調査および学力診断テストより



本年度、5年生・6年生において実施された調査の結果（国語科・算数科・学習や日常生活に関わる質問）より、その成果と課題等については、教職員で共通理解を図ってきました。

今回、学年ごとに国語科・算数科における本校のおおまかな傾向についてお知らせします。

【6年生 国語科】

本校の国語科の正答率は、県および全国の平均正答率を上回りました。

特に、無回答率が県や全国平均を下回り、最後まで粘り強く取り組む姿がみられました。

また、「知識・技能」の領域の問題については、良好な結果となりました。朝の学習で行われている漢字などの反復学習が基礎の積み上げに繋がったと考えられます。

一方、問題文の言葉を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して記述するという問題において、正答率が県および全国の平均正答率を下回りました。問題文を読み解く力も必要ですが、「何について書くのか」「言いたいことは何なのか」ということが分かっている文章にまとめることはできません。今後の学習指導にあたっては、書き方の手本を児童に示しつつ、書きたい内容を具体化することにより、児童の表現力をより一層高めていきたいと考えています。

【6年生 算数科】

本校の算数科の正答率は、県や全国の平均正答率を上回りました。

特に、「知識・技能」の領域の問題については、良好な結果となり、基本的な計算問題や用語の理解などの定着が図れていることがわかりました。

また、算数科全体を通して無回答率が低かったことは、これまでの日々の取組の成果が得られたと感じています。

一方、2つの表から、集計に誤りのある項目を見つけ、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述するという問題で、正答率が少し低い傾向がみられました。この問いでは、数量同士の関係や表に示された条件を正確に読み取らなければ、正しく文章で解答することはできません。資料の内容を理解し、使う情報を選び、自分の考えとの関係を整理し、条件に合う文章が書けるように、児童の思考力・判断力・表現力を引き続き高めていきたいと考えています。

【5年生 国語】

本校の国語の正答率は、市や全国の平均正答率を上回りました。

特に、基礎的な学力を問う内容については、良好な結果となり、漢字の読み書きなどの基本的な知識・技能は身につけていることがわかりました。また、「話す・聞く」という領域においても、市や全国の平均正答率を上回っていました。

一方、資料等を活用して問いに答える問題では、市や全国の平均正答率を下回っていました。また、説明文や文学的な文章を読み解くという問題においても、全国の平均正答率をやや下回っていました。日々の学習の中で、音読を通して、作者や登場人物の心情や思い、願いを考えさせるような授業づくりに努めていきたいと考えています。

【5年生 算数】

本校の算数の正答率は、全国の平均正答率とほぼ同じで、市の平均正答率をやや上回りました。

また、基礎的な学力を問う内容については、市や全国の平均正答率を上回っていました。国語科と同様に、知識・技能は身につけていて、基本的な計算問題や用語の理解などの定着が図れていることがわかりました。

一方、応用的な問題だと正答率が下がる傾向が見られました。また、いくつかの資料を活用して答えを求める問題においても、市や全国の平均正答率を下回っていました。

今後の学習指導にあたっては、日常の事象を数学的に捉え、既習の内容と結び付けて、統合的・発展的に考えられるようにしていきたいと考えています。児童からたくさんの考えを引き出し、「考え方はひとつじゃないよ」を合言葉に日々の学習を進めていきたいと思っています。